

第193号/昭和61年10月1日発行/毎月1回1日発行/昭和59年9月25日 国鉄首都特別送達雑誌第7784号/昭和46年3月3日第三種郵便物認可

建築と都市 Architecture and Urbanism

au

86:10

October 1986
No.193

特集:ヨーゼフ・パウル・クライフスの作品

アンリ・ゴダン:集合住宅

BDMアルキテクトス:オフィス・ビル

Josef Paul Kleihues, Henri Gaudin, BDM Arquitectos



Patrice Mottini

ピエール・ブロソレット中学校
"Pierre Brossolette" Middle School

パトリス・モッティーニ

Patrice Mottini

with

Maryvonne Gaillard, Alain Aubin, Francis Guerrier and Odile Hubert
Maryvonne Frossard

フランス、ブリオンヌ／1984年
Brionne, France / 1984

Photos by Dahliette Sucheyre



1- 美術室外部(左)と教室棟北東端部を見る。
2- 外観、南西側より見る。
3- ガレリア。

1- Exterior view of the design classroom
(left) and the northeast end of the
classroom block.
2- Exterior view from southwest.
3- Gallery.





4



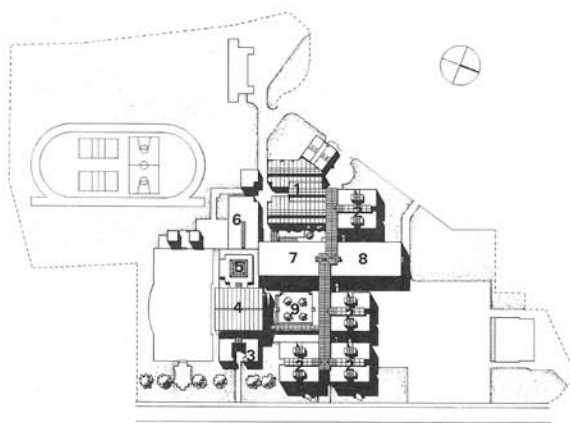
- 4-外観、北側より見る。
5-エントランス。
6-配置図；縮尺：1/3000

- 4-Exterior view from north.
5-Entrance.
6-Site plan; scale: 1/3000

凡例/Key

- 1-アトリエ棟/Atelier block
2-教室棟/Class block
3-芸術棟/Art block
4-雨天運動場/Gymnasium
5-多目的ホール/Multi-purpose hall
6-厨房棟/Kitchen block
7-理科棟/Science block
8-管理/歴史・地理棟
Administration/History-Geography
9-中庭/Patio

6



1. 計画の経緯

ブリオヌのビエール・プロソレット中学校は1965年に建設された。この学校は400名の生徒を収容し、300名が校内で昼食をとれるだけの規模をもっていた。1980年には、簡易建築の実習教室を含む17の教室並びに追加の食堂および教育コンサルタント教官用の事務室として使用される教室を増築したことにより、収容人員750名、うち昼食を校内で食べる生徒550名という規模となった。

1980～81年にかけて拡張および改修のためのスタディーが開始され、それまでも学校の建て直しを要求して来た両親および地方自治体相互協議会がその会長を通じてこのスタディーに積極的に参加した。1981年5月自治体相互協議会は私に最初の計画の作製を依頼してきたのだが、1982年2月には2回目の計画の検討が行われ、750名の生徒を収容できるCES(中学校)、64名収容の特殊教育部門、550名が校内で昼食をとれるような施設を計画することになった。

また、工事は学校の活動に支障が無いように施工しなければならなかった。1981年7月に4チームを対象として設計コンペが行われた。

1982年10月25日審査員の協議の結果私の計画が採用された。1982年12月23日計画が最終的に承認された。1983年1月入札が行われた。1983年4月25日着工。多目的室および厨房を内容とする第1期工事は1982年10月に着工されていた。教育パビリオンを対象とする第2期工事は1984年5月に完了し、第3期は1984年8月31日に完了した。工事は16ヶ月にわたり施工され、学校の活動は多少影響を受けたとはいえ、分割施工が機能したために、停止することはなかった。

2. 学校の総合計画

計画の全般的な構成は以下の要素に基づき決められた。工事中にも学校が機能するという条件：この条件により工事全期間に亘りプレハブ教室を保存し、既存建物の様々な箇所の計画を集中する必要がある。

以下のような教育上の意向：

- 一様々な学校活動時間における生徒の集中を避ける。
- 一様々な教育形態を取れる：個人学習/小グループでの学習(生徒数名)/集団学習(数クラス)
- 一学校生活の様々な場所を表現し、生徒が学校全体に対する自らの位置づけができるようにする。生徒に目印

となる場所、自分のものとなる場所を提供する。

一CES(中等教育)生とSES(特殊教育)生との関係の向上。これらの意向に応じて、学校はアーケードに沿って配置され、このアーケードからは以下の施設が望める：

一般教育パビリオン4棟。これらの建物は生徒達の日常の活動の場で、以下のような分類で使用する：

- ・教育科目別：国語(フランス語)、外国語、数学および特殊教育
- ・学年別：6年生用/5年生用/4および3年生用/特殊教育用
- ・教育チームが望むその他の分類方法：科学実験/技術教育科/芸術科：水曜日の実習の一環として学校の時間外にも生徒が使用できる様にする。

校内の公共の場

一管理事務所：生徒の親、生徒が時々開設する指導事務室、教育コンサルタントの事務室およびより定期的に生徒が開設する学生監務室。

一生徒と教師が出会い、共に学習する場であるCDI。この部分は学校の残りの部分をすべて閉めた上で必要により町民にも解放する。

一多目的室。普段はセルフサービスの食堂として使用。時により講堂(映画、講演会)として使う。

このアーケードおよびパティオを通して屋根付きの中庭に通じるその延長は、生徒のミーティング・ルームおよび休憩室に縁どられた「散歩道」となっており、学校全体における移動の中心となっている。

学校の主な施設

1. **パビリオン**：それぞれのパビリオンは2階建てで独立している。パビリオンには教育に必要な一般的な教室、パビリオン自体が閉まっている時でも生徒たちの集会の場となる公共スペース(休憩室)、職員の仕事部屋、機械室(暖房機室など)および休み時間に生徒たちがカバンをおいておけるような廊下から構成される。部屋用途の変化(生徒数および教育内容に応じた変化)に対応するため並びに防災上の理由からパビリオン間は2階で連絡できるようにになっている。

2. **CDI**：既存建物の2階にある施設の外壁はアーケードに面しており、アーケードの上にバルコニーが出ていることから学校に入ると直ぐに目印となる施設であ

る。この施設は2部屋から成り、内部は生徒たちが資料室の静寂を破らずとも本を捜したり選んだりできる配置となっている。

3. **多目的室**：学校全体に対するこの多目的室の位置は、サービスヤードから厨房へのアクセスおよび厨房内部の配置(調理器具を動かさないように)を変えなくてもすむようにとの配慮および多目的室と運動場とのつながりから選ばれたものである。

4. **特別教室**：特別教室の配置は、既存の設備が再使用できるようにという配慮から決められた。2つの理科教室は良好な状態にあるので理科教室は既存建物の中に配し、その延長部を南向きに植物園の中に付けた。歴史・地理科は建物端部の3つの既存教室を使用する。地図保存倉庫がその目印となる。

5. **SES(特殊教育部門)**：学校全体から見ると他のパビリオンと全く同じ相対位置にありながら、これは実習室棟とは特別な関係にある。

6. **実習室(アトリエ)**：ここでは科目に応じてCESとSESが一箇所にまとめられた。音のうるさい実習室は、サービスヤードからアクセスできる工場タイプの建物に(工業実習所、EPI、男子SES用作業所)、音を出さない実習室は既存建物内に配置された(EP2およびEP3は技術的な理由から実習室棟の向かい側、科学実験の上に、SESはSESパビリオンと直接接続して)。

7. **屋外スペース**：アーケード、パティオ、中庭が、学校の屋内および屋外スペース全体と以下の箇所をつなぐ役割を果たしている：CESの正門であるCESとLEPに共通な広場からアーケードを通して、生徒および教師が学校活動の様々な場所にアクセスすることができる。マルチル通りからもCESの責任者の意向があれば、子供たちをCESに入れることができるが、この通路はむしろ事前に決められた教育活動のために両親、友人、付近の住民などがCESの他の機能を邪魔せずにCESの一定の屋内または屋外スペースに入るために使われる。中庭は列をつくって昼食に向かう生徒たちのため、および雨の日の運動場として使用される。

8. **運動場**：現在使われている運動場はそのままの形で維持される(運動場1)。敷地の南部分に雰囲気異なる運動場が2つあることから、種類の違う複数の野外活動を同時に行なうことができる。

訳：松本美利



7-雨天運動場.
8-「芸術」棟.
9-上階平面図
10-下階平面図
縮尺: 1/1000

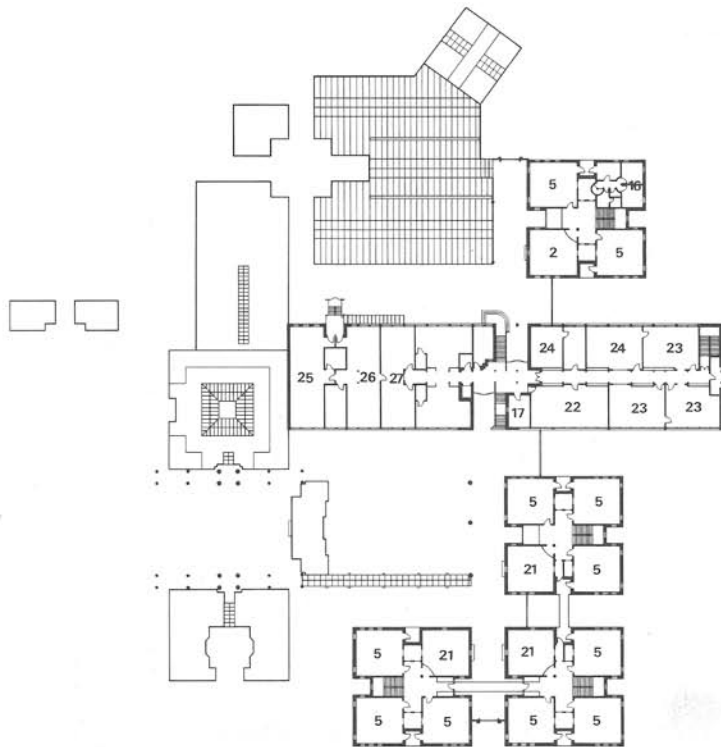
7-Gymnasium.
8-"Art class" block.
9-Upper level plan
10-Lower level plan
scale: 1/1000

凡例

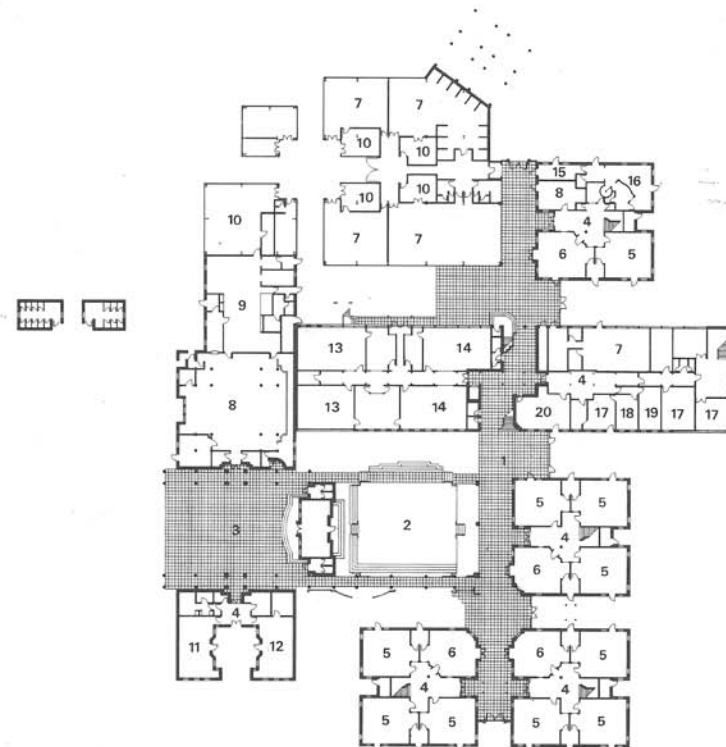
- 1-アーケード
- 2-中庭
- 3-雨天運動場
- 4-ホール
- 5-教室
- 6-ホワイト
- 7-アトリエ
- 8-多目的室
- 9-厨房
- 10-倉庫
- 11-美術室
- 12-音楽室
- 13-理科室
- 14-映写室
- 15-守衛室
- 16-宿舍
- 17-事務室
- 18-校長室
- 19-副校長室
- 20-教員室
- 21-吹抜け
- 22-視聴覚事務室
- 23-歴史・地理教室
- 24-自習室
- 25-EP2
- 26-EP3
- 27-CDI

Key

- 1-Arcade
- 2-Patio
- 3-Gymnasium
- 4-Hall
- 5-Class room
- 6-Foyer
- 7-Atelier
- 8-Multi-purpose hall
- 9-Kitchen
- 10-Reserve
- 11-Design class
- 12-Music class
- 13-Science class
- 14-Projection room
- 15-Guard
- 16-Lodgings
- 17-Office
- 18-Principle
- 19-Vice-principle
- 20-Professor
- 21-Open to below
- 22-Commercial-A.V.
- 23-History-Geography
- 24-Study hall
- 25-EP2
- 26-EP3
- 27-CDI



9



10



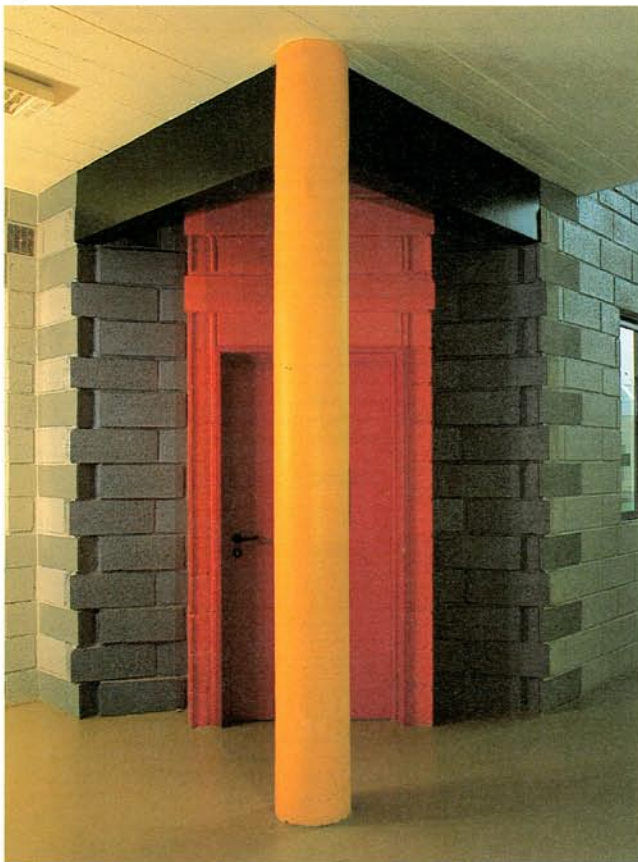
11



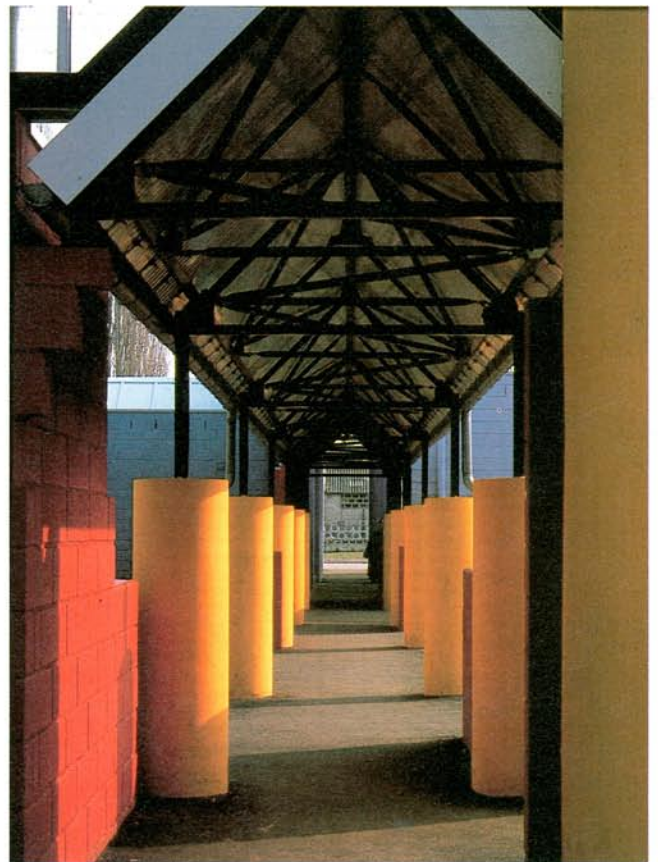
12



13



14



15

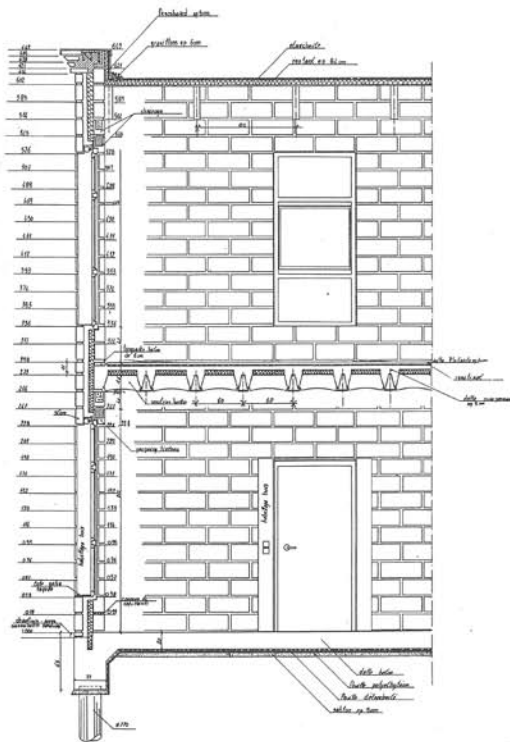
16-アーケード,
17・18-詳細図
縮尺: 1/80

16-Arcade,
17・18-Detail
scale: 1/80

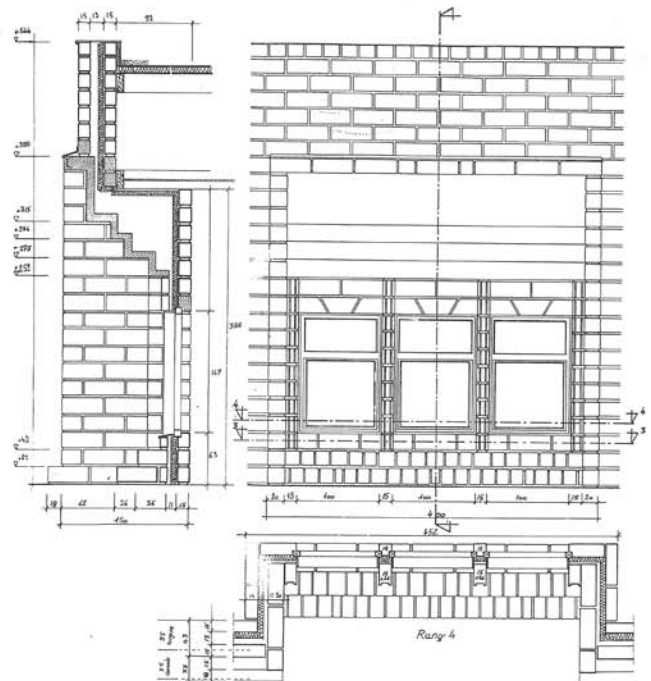


16

Client:
Syndicat Intercommunal du C.E.S.
de Brionne (President: Monsieur Zucconi)
Project direction:
Direction Departementale de l'Equipement
de l'Eure
Architect:
Patrice Mottini
with
Maryvonne Gaillard, Alain Aubin,
Odile Hubert (Collaboration)
Colorist:
Maryvonne Frossard
Structure:
Sechaud & Bossuyt
Equipment:
Claude Roger
Electric:
Sylvain Niccolai
Supervision:
SOCOTEC, Petit Quevilly



17



18